

山岳遭難発生状況

(令和8年1月1日～令和8年1月18日)

地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和8年	11	3	2	3	3	11
令和7年	4	1	0	2	3	6
前年同期比	7	2	2	1	0	5

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	5	45.5%	1	2	1	5
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
	計	5	45.5%	1	2	1	5
中央アルプス	1	9.1%	0	0	0	1	1
南アルプス	0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰	2	18.2%	1	0	1	0	2
その他の山岳	3	27.3%	1	0	1	1	3
計	11		3	2	3	3	11

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	3	27.3%	0	1	2	0	3
転倒	1	9.1%	0	0	1	0	1
病気	2	18.2%	2	0	0	0	2
道迷い	2	18.2%	0	0	0	2	2
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	1	9.1%	0	1	0	0	1
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	1	9.1%	0	0	0	1	1
不明・他	1	9.1%	1	0	0	0	1
計	11		3	2	3	3	11

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	
20代	1	0	0	2	3	4	0	0	0	0	0	1	3	5
30代	0	1	0	0	1	50.0%	0	1	0	0	1	33.3%	2	45.5%
40代	0	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1	3
50代	1	0	1	0	2	37.5%	0	0	0	0	0	0.0%	2	27.3%
60代	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	2	2	3	3
70以上	0	0	0	0	0	12.5%	0	0	0	0	0	66.7%	0	27.3%
計	2	1	2	3	8		1	1	1	0	3		11	
比率	72.7%						27.3%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（1/13～1/18）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
1月15日	北アルプス 小遠見山	男	46	負傷	滑落	2人パーティで小遠見山東方をスキーで滑走中、滑落、負傷
1月17日	ハケ岳連峰 阿弥陀岳	男	52	負傷	転落	3人パーティで広河原沢をアイスクライミング中、転落、負傷
1月17日	白馬村 北城地籍の山中	男	20	無事救出	道迷い	単独でスキー滑走中、道に迷い、行動不能
1月18日	山ノ内町 平穏地籍の山中	男	60	無事救出	道迷い	スキー場を滑走中、管理区域外に迷い込み、行動不能
1月18日	北アルプス 小遠見山	男	30歳代	行方不明	転落	4人パーティで小遠見山北側の山中をスキー滑走中、沢に転落し、行方不明

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では5件の山岳遭難が発生し、うち4件はバックカントリー中の遭難です。
自然の山岳エリアを自由に滑走するバックカントリーは、整備されたスキー場とは異なり、雪崩の発生、視界不良による道迷い、急斜面や崖への転落、立木や岩への衝突など、常に多くの危険と隣り合わせです。
ひとたび、事故が起これば、救助までに時間を要することも少なくありません。
そのため、バックカントリー滑走には、滑走技術だけでなく、雪の状態や地形、天候を正確に判断する力や冬山登山技術、ルートファインディング、さらには、雪崩対策や負傷者の救護に備えた知識や技術が必要です。
これから、バックカントリースキーを計画している方は、計画に無理がないか、装備が適切か、自身の技術、体力、経験がその計画に見合っているのか、改めて冷静に見直しましょう。
少しでも不安がある場合は、計画の変更・中止する勇気を持つことも重要です。

先週県内では、5件の山岳遭難が発生し、うち4件はバックカントリー滑走中の遭難でした。BC滑走は、滑走技術だけでなく、登山の知識や技術、判断力が不可欠。計画や装備、技術を見直し、無理のない行動を。スキー場とは全くの別世界であるということを忘れずに！